

令和元年度下松市総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和元年10月31日(木)午後3時～午後4時35分
- 2 開催場所 下松市立下松小学校 多目的スペース
- 3 出席者 [構成員]

市長	國井益雄
教育長	玉川良雄
教育委員会委員	市川正紀
教育委員会委員	江口雄二
教育委員会委員	今井かおり
教育委員会委員	白木正博

[関係者]

総務部長	藤本泰延
企画財政部長	玉井哲郎
教育部長	小田 修
教育次長	河村貴子
学校教育課長	世木 尚
学校給食課長	池田千帆
生涯学習振興課長	片山康秀
図書館長	長弘純子
下松市立下松小学校長	西本 隆
教育総務課長補佐(兼)管理係長	引頭康行
学校教育課長補佐	藤田康伸
学校教育課指導主事	久原正裕
学校教育課教育指導員	大木訓子

4 会議の付議の顛末

○教育次長 ただいまから令和元年度下松市総合教育会議を開催いたします。

本日、進行を務めさせていただきます下松市教育委員会教育次長の河村でございます。よろしくお願いいたします。

初めに、開会に当たりまして、國井市長にご挨拶をお願いいたします。

○市長 皆さん、こんにちは。令和元年度の下松市総合教育会議の開会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方には今日は、お忙しい中をこうしてお集まりをいただきました。お礼を申し上げます。また、平素から下松市市政はもとより、教育行政において推進の立場でいろいろな面からご協力をいただいておりますこと、心からお礼を申し上げます。

今年は、下松市にとりまして市制施行80周年という記念すべき節目の年であります。明後日、11月の2日には記念式典を盛大に挙行いたす予定であります。諸先輩方が築いてこられました大きな礎に感謝をしながら新たなまちづくりの一步を踏み出してまいりたいと考えております。

さて、下松市総合教育会議は、教育委員会と市長部局が教育の課題やあるべき姿を共有するた

め、法律の改正を受け設置されたものであります。これまでも教育大綱の策定や教育に関する諸課題について意見交換を行ってまいりました。本日は、「コミュニティ・スクールについて」と「プログラミング教育について」を議題といたします。どうか皆様方のご意見を伺い、目指すものを共有し、「育ち育てるまちと誇りのあるさとづくり」の進展が図られることを期待しておりますので、開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○教育次長 ありがとうございました。

本日の日程でございますが、初めに、議題について学校教育課長から概要を説明いたします。続いて、下松小学校西本校長から事例発表をしていただきます。その後、市長と教育委員との意見交換を行うこととなります。それでは、世木課長、お願いいたします。

○学校教育課長 失礼いたします。学校教育課の世木でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、私から本日の議題でありますコミュニティ・スクール、そしてプログラミング教育について、その概要を簡単に説明させていただけたらと思います。

まず、コミュニティ・スクールについてです。

学校運営協議会を設置している学校のことをコミュニティ・スクールと呼びます。コミュニティ・スクールは、法律の規定に基づき、保護者や地域住民等が一定の権限と責任を持って学校運営に参画することで、地域に開かれ、地域に支えられるよりよい学校づくりを実現するために、市教委が設置する合議制の機関であります。このコミュニティ・スクールによって実現する、地域とともにある学校とは、学校と地域住民等が子ども像や学校像を共有し、それぞれが当事者意識を持ち、一体となって地域の子どもたちを育てていく地域の学校であり、そこでは子どもたちの成長のみならず、そこにかかわる教員も含めた大人たちの成長をも促し、ひいては地域のきずなを強め、地域づくりの担い手を育てていくことにつながると文部科学省は説明をしております。ただ単に地域の方に学校を支援してもらったり、子どもたちがボランティア活動を地域に出て行ったりする表面的な活動を先行させればよいということではなく、ふるさとに誇りを持ち、たくましく未来を切り開く、心豊かな児童生徒を育成するため何ができるかということを経験と地域がともに考え協働していくその過程が大切であると認識しております。

下松市の小中学校では、学校地域連携カリキュラムの作成を通して、子どもたちのために何ができるかを地域の方とともに一緒に考えていこうとしているところです。

また、教育委員会としましては、地域学校協働活動推進員を委嘱するなど、コミュニティ・スクールを核とした地域連携の推進体制を確立し、コミュニティ・スクールの周知、理念の共有、そして取組の充実に努めているところでございます。

続いて、プログラミング教育についてです。

学習指導要領の改正により、来年度からプログラミング教育が小学校で全面実施となります。プログラミング教育とは、子どもたちにプログラミング的思考などを育成する教育のことを指します。プログラミング的思考とは、自分が意図する活動を実現させるためにどのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力のことを指しています。

本市では、今年度、下松小学校を研究指定し、プログラミング教育の実践研究を進め、市全体にその研究の成果を還元していくこととしているところです。

私からの概要説明は以上でございます。

○教育次長 続きまして、西本校長より事例発表を行っていただきます。前方のモニターのほうをご覧くださいませ。校長先生、お願いいたします。

○下松市立下松小学校長 それでは、改めまして、ご来校いただきありがとうございます。

日ごろの教育活動ということで、こういう機会をいただきましたので、下松小学校の取組について少しご紹介をさせていただきます。座ってお話をさせていただきます。

年度の振り返り地点でございます、10月の1日、こちらに全校朝会というのが本校でございまして、校長の話という時間をいただきましたので、本日の前半は、子どもたちに向けて話した

コミュニティ・スクールの内容についてご紹介をさせていただきます。

最初にこんな問いかけをしてスタートしました。147年を迎える本校は、歴史のある学校で、50年単位でこれまでの歴史を振り返っていこう。少しこんな投げかけをしてみました。最初の50年間のキーワードは、「学校の誕生」、それから「大きくなる学校」です。明治5年8月、中市にある周慶寺さん、こちらを仮の校舎として本校は開校しております。当時の児童数は9名という状況でした。明治13年、土井校舎、今の下栄町ですが、こちらに移築しております。それから、こちらが明治34年、土井校舎の玄関前で卒業写真の撮影を行っております。開校して30年で児童数は激増574人と、恐らく町の発展と社会の安定化がこれらの要因ではないかと考えております。土井校舎、西校舎前で写真撮影を行っております。子どもたちがひげを生やした子どもがおるといふふうに言っておったんですが、この2列目から3列目にかけては、当時の学校の職員のご様子です。

開校して50年から100年にかけての下松小学校のキーワードは「校章」、学校の印、「校歌」、「校訓」といった現在の学校につながるものと、それから「大きな学校」というのがキーワードとして考えております。

大正14年、現在の西豊井に校舎を移築をしております。1,155人という児童数でした。

昭和6年、兼田先生が現在の校章、松の間に下松の下がこうデザインされていますが、こういう校章をデザインされて今も大切に使用しております。昭和18年、戦時中ですが、全国健康優良校、剣道で心と体を鍛えるということで、運動場で、これを調べておってびっくりしたんですが、グラウンドにこんな立派な忠魂碑もあったんだなということで驚いたところがございます。

昭和30年、現在の下松小学校の校舎が完成しております。昭和31年から全国に先駆けて下松小学校で道徳教育を研究しておりました。実はこの児童数、2,505人というのが本校の一番多い児童数です。恐らく第1次ベビーブームでこのころが一番多いころではなかったかなと思っております。全国から3,000人の参加者に来校していただいて、道徳とはこういう取組だというあたりを発信したという伝統がございます。

昭和38年、高学年のプール、今も使用しておりますが、それから中庭には理科センターというものがございます。

昭和39年、校訓「健康、誠実、勤勉」が制定され、あわせて低学年にわかりやすく「げんきに、まじめに、しんぼうよく」といった言葉も制定されております。

昭和44年、記憶にある方もたくさんいらっしゃるのではないかなと思いますが、下松小に大きな体育館が完成しております。

そして、大きな節目となる下松小学校創立100周年事業が盛大に行われました。こちらがその当時取りまとめられた100周年の記念誌ということで、こちらのほうの中にもいろんな写真がございまして、今ご紹介しておるところでございます。

創立100周年からの50年間のキーワードは、「大きな学校」、「大きな校舎」、「自慢の学校」、「下松小五心」ということで取り上げております。運動場前に近代的な第1校舎が完成したのは昭和48年です。このころから旗岡に団地が造成されて多くの児童が通う学校になりました。

4年後の昭和52年、現在も使用しておりますが、そちらにございますが、4階建ての第2校舎、こちらが完成しております。

昭和56年、下松小の子どもにとって心のよりどころとなる下松小五心が制定されました。このころが第2次ベビーブームであり、2,185人、多くの子どもたちがこの学校に通っております。このような校舎配置により下松小の歴史が刻まれてきました。この50年間は、教育活動の柱がきちっと存在し、その教育の充実・発展を繰り返していった期間だと考えます。運動場いっぱい多くの児童が集い、整然と整列する指導が丁寧にこのころ行われておりました。子どもの学びを大切にされた教育活動が繰り返されていっております。

そして、校舎の新築や解体が繰り返され、すばらしい現在の環境に向けて工事が進んでおるところでございます。

さて、新しい校舎で迎えるこれからの50年間はどんな学校になるのでしょうかと子どもたちに

問いかけてみました。キーワードは、「新しい学校」、「大きな学校」、そして目指すのは、人とつながる、地域とつながる学校をみんなで作る、それがコミュニティ・スクールだと、これまでと違う大きな一歩ということで子どもたちに紹介をしました。子どもたちに話したお話です。皆さんの周りにはさまざまな立場の方がいらっしゃいますと。学校、家庭、地域で思いを確かめ合って、地域のみんなで地域の子どもを育てていく、それがコミュニティ・スクールなんだよと。その中で何をを目指すのか、何のために行うのかしっかり話し合う、確かめ合う、こういったことを大切にしていきます。子どもたちの周りには学校、家庭、この地域、こういったものつながりがこれからより一段と重要になってくる。そのために、本年度学校のチャレンジ目標、こちらを変更しました。「下松小五心でABC!」、こちらは校訓であった「健康、誠実、勤勉」、低学年用の「げんきに、まじめに、しんぼうづよく」、これを覚えやすい目当てに整理していくためにABCという言葉で設定しております。健康、元気なことは挨拶に関係するということで挨拶の「あ」を都合よく「A」というふうに位置づけて、つながりの基本に挨拶へのチャレンジを掲げております。毎朝の登校風景ですが、子どもたちが元気に通っております。こちらは1年生の下校の様子なんですけど、この1年生、元気いっぱい本当に今この地域を明るくしてくれています。

それから下松小B、誠実、まじめには心の美しさに関係し、美しさをビューティフルのBと位置づけて、心や行動の美しさへのチャレンジを掲げました。6年生が一生懸命1年生の世話をする、こういったことも美しい心。

そして、勤勉、しんぼうづよくは、挑戦していく心、チャレンジにかかわるCと位置づけ、目当てに向けて頑張る行動をチャレンジとして掲げました。

こちらは外国語活動の様子です。また、ご覧いただきましたように、いろんな学年でこうやって話し合っただけを深めているスタイルをとっております。

最後に、みんなの下松小学校は、人とのつながり、地域とのつながりができていますかと子どもたちに問いかけて終わりました。

ここから後半については、本校の教育活動の中核となるコミュニティ・スクールについてご紹介をいたします。

子どもにとっての社会は家庭から始まります。そして幼稚園や保育所に通い、学校に通う中で社会が広がっていきます。子どもが地域社会の一員として社会性を身につけていく過程をよりよいものに仕立てていく、その一役を担うのがコミュニティ・スクールではないかなと考えます。

地域とともにある学校づくりの推進に向けて学校でさまざまな教育活動を行ってまいりました。その一つが、地域との関係性をつくる第一歩、大人との信頼関係づくりと考えます。2年生では、まち探検でたくさんさんの保護者に参加していただいております。探検先は、こちらが内山写真館とか、日の丸印室の有田さん、それからすみれ園芸さんとかかめや釣具店、JR下松駅、くだまつボウル、こういった事業所に15カ所伺って、大人の思い、いろいろ伺うことができました。

学校の学習会では、夏休みには教員のOB、それから地域の見守り隊、こういった方にもおいでいただいております。消防署の見学で署員さんから思いを伺ったり、多くの読み聞かせボランティア、図書室のボランティア、そして今日ご来校いただいております食育推進のボランティアさんなど、たくさんさんの大人が学校にかかわっていただいております。

それから、コミュニティ・スクールの機能に学校運営がございます。地域とともにある学校づくりに大きくかかわるのが、学校地域連携カリキュラムと考えております。地域の方と触れ合い、地域のよさを感じ取り、地域に積極的にかかわっていく気持ちを高めていくにはどうしたらよいのか。コミュニティ・スクールの委員さん方と意見を交わしながら教育活動の充実を考えていくことを下松市でも重要視されておられます。

ここから、プログラミング教育の実践を交えながら2つの取組をご紹介します。

3年生では、下小ロボコン、ものづくり下松の魅力ということで授業を行っております。下松市がものづくりのまちとして栄えた場所であり、ものづくりが私たちの生活を豊かにしていることに気づかせていくことを狙いとして、日立のぞみ会の皆様のご協力をいただいて、プログラミングの学習を行いました。学習活動はこのようになっております。お手元でございます「エムボ

ット」、これを使って子どもたちが、ちょっとこれを動かしてみようと思うんですが、電源を入れますと、このBluetoothでこういうふうに接続します。そうすると機能スタンバイよということにロボットが動いたことになります。で、スタートボタンを押しますと、今、こういう簡単な動きではあるんですけども、これを実は小学校の3年生がこの工程をプログラムしてこちらにつくってそれを電波で飛ばして今ロボットを動かしたという次第でございます。このプログラムはいろいろ追加がどんどんできまして複雑な動きもできます。この下にいろんな動作を加えていくことで、スピードも変えられる、距離も変えられる、いろんなことを試みることができます。それを子どもたちが試行錯誤していく、これが一つの学習の狙いになっております。

それから、先ほど少しご覧いただきましたが、6年生はマイベストシティー下松ということで、市制80周年記念ということで下松市を紹介するCM、こちらを作成しております。ショートムービーでいろんなキャラクターを動かす、まさにご覧いただいたとおりではないかなと思います。

そのほかにもさまざまな学年、学級でプログラミングを取り入れた実践を積んでいるところで、教員間でさまざまな提案工夫をして広がっております。

そして、一昨日ですが、この場所で第3回学校運営協議会を開催しました。この地域連携カリキュラムの改善をコミュニティ・スクールの委員の皆さんと話し合いました。例えばこちらの3年生は、これまで「発掘下松の歴史」ということで、家族へのインタビューとか図書室の資料で調べる学習、要はそういった学習にとどまっておったんですが、地域の皆さんから意見をいただくと、「住吉神社は水の神様、あそこら辺が海との境じゃったんよ」とか、「中市は火の神様で、妙見様とか下松神社は、、、」とか、いろんなアイデアとかいろんな思いを述べられます。住んでいる地域の祭りのお話を子どもたちがしっかり聞くことで関心が高まり、祭りにどんどん子どもが参加していくよ、こういうサイクルができるんじゃないかというアイデアをいただきました。

あるいは、5年生では米づくりを学習する機会がございます。図書室の資料とかインターネット、バケツを使った稲づくりというのは本校でもやっておったんですが、この地域の皆さんからご意見をいただくと、下松で米づくりをしている人を探してみようじゃないか。実際この下松の中で下松小校区の中はほとんどございませんが、ちょっと探してみようかとか。餅米をつくって下松中央公民館祭りで餅つき、子どもがつくった米を入れて餅つきをしたらおもしろいんじゃないか。こうやっていったら地域のよさを味わえるよ。もう本当いろんなアイデアをいただくいい機会だなというふうに感じております。

それから3点目、地域とのつながりを大切にしていくためには、やはり先ほども申し上げました挨拶、これを一層充実させる必要がございます。そのためには教員がやれやれではなくて、子ども自身が参画意識を大切にするということで、ちらっとご紹介、宣伝にもなりますが、委員会の委員長に給食時間に校長室に集まってもらって、給食を食べながら10人の委員長と「挨拶を盛り上げていくためにはどうしたらええかね」というふうな話し合いをしました。各委員会が挨拶に関する企画を考えて盛り上げることができると思いますとかですね。「危なそうな人は避けて挨拶をしたらい人から挨拶をするといいと思います」とか、これは子どもの本音だと思います。それから、「地域の人が交流するイベントに出ると顔見知りになり、挨拶が広がりますよ」と本当熱く語ってくれるんです。やっぱり子どもの気持ちをそうやって引き出すことが大事だなと思いました。それを受けて、挨拶のつながりレベル表というのをつくって子どもたちに紹介しました。レベル1、2、3、4、5とありますが、一番目指すのはもちろん5ですが、とりあえず当面レベル4を目指そう。交通指導の方や知っている地域の人に挨拶ができる。これを今子どもたちに働きかけております。きょう、後ほどまた資料にもございますので、ご覧いただけたらと思っております。

最後に、下松中校区でコミュニティ・スクールの取組を充実させていく地域教育ネット、この取組をご紹介いたします。

8月1日に、教職員、保護者、学校運営協議会の皆さん、総勢112名がサルビアホールに集って、15歳の下松の子ども像についてしっかり話し合いました。グループでそれぞれの立場で意見交換を行い、どんな姿に育ってほしいか、願いを語り合い、グループの意見を全体で共有し

ました。その後、懇親会も開催され、本音で下松の子どもたちの未来を語り合いました。このような取組を中学校校区で行い、地域ともにある学校づくりを進めるのが地域教育ネットと思います。毎月、豊井小と下松中と私ども下松小の校長が毎月毎月、会合を重ねて研修会を計画的に進めているところです。下松市で進めていただいている心豊かな子どもを育てる推進事業、こちらにも大きな原動力にして、下松市を一層盛り上げていく必要があると考えております。10月1日には教育部長さんにもお越しいただいて、挨拶、このとおりに加わっていただきました。市長さんも毎月毎月、大手町の交差点で子どもに元気をいただいております。本当にありがとうございます。

下松教育の指針には、コミュニティ・スクールの取組を通して、地域とともにある、信頼される学校づくりに向けて3つの取組を掲げられています。これらの実現に向けて、教職員と子どもと保護者と地域の方々が一体となって下松市をより一層盛り上げていくのがコミュニティ・スクールじゃないかなと考えております。プログラミング、それからコミュニティ・スクール、教職員がチーム一丸となって取り組んでおるところでございますが、これに地域の方が加わることで一段と教育が充実するということでご紹介をさせていただいたところでございます。

貴重なお時間をいただき、どうもありがとうございました。（拍手）

○教育次長 西本校長先生、ありがとうございました。

それでは、これから議事に移りますが、その前に1点お願いを申し上げます。大変恐れ入りますが、ご発言の際はマイクをご使用いただきますようお願いいたします。

なお、議事の進行につきましては、下松市総合教育会議運営要綱第4条第3項の規定により、会議の議事進行は市長が行うこととされております。國井市長、どうぞよろしくようお願いいたします。

○市長 それでは、最初の議事に入らせていただきますが、1点目がコミュニティ・スクール、今、西本校長からも詳しく、また世木課長からもありましたけども、コミュニティ・スクールについて皆様方のお考えをお聞きしたいわけですが、その前にちょっと私の意見をお話しさせてもらいたいと思うんですけども、実は今、西本校長のほうから下松小学校区にお米ができる場所というお話がありました。実は今から十数年前なんですけども、私、県議会におりまして、文教警察委員会のほうにおりまして、その頃、このコミュニティ・スクールという話がスタートしたようであります。実は、私自身、下松小学校の隣の豊井小学校に通った経験がありまして、出身校でありまして、豊井小学校に実は校庭に田んぼの土を入れて、わずかなエリアですけども、田んぼをつくる、あの田んぼの土は来巻のほうから運んでもらったわけではありますが、そういうような中で田んぼをつくって地域の年配の方、また地域の自治会の関係の皆さんが、田んぼの作り方から田植えの指導、そしてまた秋になったら稲刈りをして、そして餅つきをする。年末にはその餅をついたところを独居老人の方々に児童が配るとかですね。まさにこれがコミュニティ・スクールじゃないかなというような経験がありまして、その一連の行事にかかわってましたので、県の委員会等ですごい自慢しながら、「下松にはこういう学校があるぞ」というようなことを紹介させてもらった記憶があるんですけども、今先ほどからの説明の中では、地域がこうかかわると同時にそしてまた将来的に子どもたちに地域に誇りを持ってもらう。言いかえれば、「大好き下松」って今出ましたけども、将来はまた下松に住むというか、学校とかの関係もありますが、そういうことを育むような地域づくりというか、ちょっと今西本校長の話をしていろいろお聞きする中で私自身のちょっと思いも言わせていただいたんですけども、自由意見として、皆様方のご意見をお聞きしながらまたいろんな面で生かしていきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。どうぞ。

○委員 コミュニティ・スクールと学校運営協議会制度というのがイコールってなっていますけれど、どういう関連でそういうふうになるんですかね。学校運営協議会制度っていろんな役割がありますよね。それとコミュニティ・スクールはどう関係しているのかというのがちょっとわからないんですが、もしわかれば教えていただきたいんですけど。

○教育長 学校運営協議会は、委員が下松市の場合には十二、三人います。それは市の教育委員会が校長の推薦のもとに指名をし、そして学校運営協議会を設置を認めるというか、許可するというような形になっております。その学校運営協議会が、協議会というのはその委員さんの構成組織

です、協議会がある学校をコミュニティ・スクールというふうに言っております。だから同一と
いいますか、はい。ただ、これに活動が加わったものをコミュニティ・スクールと、広くですね、
先ほどの西本校長先生の発表にあったような、いろんなことを含めてコミュニティ・スクールの
取組と理解しております。

○市長 よろしいですか。

○委員 そのおられる委員さんは、コミュニティ・スクールについて何かどういうふう
に会議をさ
れているんですか。

○教育長 年間5回ぐらい、この学校運営協議会の会議というのがありまして、最初のほうで学校
運営の校長先生の経営方針についていろいろご意見をいただいて承認をいただき、学校はスター
トしていきます。そして学校の求めるものとか、学校の課題をいろいろ委員さんのほうで検討し
てもらったり意見をもらったりして、解決策を検討していく。先ほど、昨日か一昨日か、ここで
学校運営協議会やられて、「この住吉とか中市とか、あれは昔はこうやった」とかいう意見がい
ろいろ出た。それを子どもたちの教育活動に返し、学校運営をよりよくしていく。実際の授業で
は、今日は、食推の方が家庭科の授業に入っておられました。あの方たちに今日は、こんな授業
をするので、「中に入って手伝ってもらえんかね」ということをお願いをして、ではやろうか
というような感じで入ってもらう。それも学校運営協議会の誰かがやったり、あるいはコーディネ
ーターという人がやったりというような形で学校の教育活動を盛り上げてもらっている、これ
が学習支援です。

そして、もう一つが、いろんな祭りとか地域行事があるので、そういったところに子どもたち
を寄こしてもらえんかねとかいうことで、例えば中央公民館のお祭りに子どもたち入れてくれと
いうことで、今年小学生がいろいろ出演したりとか、中学生がボランティアで手伝ったりとか、
高校生まで今年はコミュニティで来ておりました。そういう要請を聞いて学校の方で、派遣につ
いて、みんなで議論する場が学校運営協議会であるというふうに理解していいと思います。

○委員 わかりました。よくわかりました。

○委員 本市のコミュニティ・スクールは学校支援、学校運営、地域貢献、そして小中連携、この
4本柱で推進されているところなんです、先ほど市長さんが言われました豊井小の米づくり等
はコミスクになる前から素晴らしいことをやっておられたと思います。もう地域の方が教育さ
れて、子どもたちに米づくりを教えていたということをやっておられたと思うんですよ。今4つ
の柱と言いましたが、学校支援、地域貢献、あるいは小中連携はコミスクでなくてもこの下松市
はかなりやっていたと思います。私が今一番注目しているのは、学校運営というところで学校運
営協議会がどういうことをされているかということを非常に興味を持っているところなんです
が、ただ、校長さんの学校運営の基本方針、あるいは学校運営等について承認するとか意見を言
うということだけでは少し物足りないような気がしますね。とにかく私が今学校運営協議会にこ
の力をお借りしたいのは、不登校児童生徒が1人でも2人でもいいから学校へ通えるようにして
もらえないだろうか、そういうことを一生懸命考えてもらえないだろうかということをお場
で特にお願ひしてみたいと思います。

以上です。

○市長 いわゆる地域との連携もその中に生かしながらの、じゃないんですかね。地域、学校運営
協議会のほうでその不登校対策をと。

○委員 もちろん学校は本気になって考えなきゃいけないですよ。ただ、今まで一生懸命学校が
考えてやってきてもなかなか学校へ通えるようにさせることができないというところで、何か力
をかしてもらえるところがないかな。例えば地域の人の中には、その子を小さいときから知っ
ている。小学校までは非常にええ子じゃったんだけど、今は学校に行っていないよだというこ
とを知っておられる方もおられるんじゃないかと思うんです。そういう方のお力をかりて学校
に通えるようなことができたらとお願ひできないものかと思うんですがね。

○市長 なるほど。この辺は学校現場の詳しい教育長なんかご意見は、非常にデリケートな難しい
話ですね。

○教育長 そうですね。今、市川委員さんが言われた不登校については、各学校それぞれ大きな課
題として抱えております。特にここ数年、不登校の児童生徒の数が増加傾向にあります。これは

本市だけでなく、全国的にもそういう傾向があります。学校の教育課題でありますし、何とかしなくちゃいけないということで学校の先生方も非常に日夜家庭問したり、電話をしたりとか日記にいろいろコメント書いたり、保護者と連携したり、カウンセラー、市の子育て支援課、児相とかいろいろ連携しながらやってはきていますが、なかなか減少しないというような傾向がございます。特に小学校から中学校に入るこの中1ですね。中1ギャップということでその辺の段差を縮めていこうということで小中の連携をいろいろやってはおります。ただ、個人的なこともあるので、なかなかデリケートな問題になるんですが、委員の方にいろいろご意見をお聞きして、一緒に悩んだり考えたりすることはとってもいいし、いい意見をいただけるようになるんじゃないかなとは思っております学校も頑張っておりますが、その頑張っている様子を地域の方に知ってもらいたい機会になるんじゃないかなというふうに思います。実際に不登校を課題として話し合っている学校というのは、多分まだないのかなとは……、ありますか。大木先生、その辺いかがですか。コミスクの担当です。

○**学校教育課教育指導員** 失礼します。市教委の学校教育課で教育指導員をしております大木と申します。コミュニティ・スクールの担当をしております。昨年から各学校、学校運営協議会を中心に私も一緒に取り組ませていただいております。

今の不登校を初めとする学校課題への学校運営協議会のかかわりということについてなんですけれども、各学校の学校運営協議会が非常に活性化をしてきておりまして、学校の課題を本当に率直にご相談できるような関係が育ってきていると思います。例えば今の不登校につきましても、学校運営協議会の委員さん、地域の委員さんのほうからご指摘をいただく場合もありますし、そしてこれは直接的な不登校対策にはならないかもしれませんが、保護者への講話、こういう子育てをしたら親子の関係がうまく結ばますよというふうな、そういうふうな講話を委員さんに依頼してしていただくとかですね。あるいは学校を会場に子育て広場を開設するとかですね。やっぱり親子の関係、子育ての環境というのができるというのも、この学校運営協議会という組織があってネットワークが広がったことだと思います。情報の共有というのも非常にスムーズにできるようになっていると思います。

それから、学校課題は、いろいろありますけども、例えばいわゆる学級が崩壊して今ちょっと落ちつかない、困った状況にあるというときにも、学校運営協議会の委員さん、あるいは委員さんを通した地域の方々に本当に支援していただくというか、子どもたちを支えていただく、見守っていただくということもたくさんできております。そういった意味では、学校運営協議会が学校運営に非常に大きくかかわってくださっている現状というのはあると思います。

○**市長** ありがとうございます。地域とかかわるこのコミスクが推進されることによって不登校の一助にもなれば。今、確かに大きな課題なので、良薬があれば、即効薬があればいいですけど、難しい……。

○**委員** やはり学校が一生懸命努力をされてきたにもかかわらず、なかなか難しい、むしろ増えているような状況ですから、あえてこの場で言わせていただいたんですけど、どうにか学校運営協議会のお力をかしてもらえないものだろうかという思いでいっぱいです。

○**市長** それぞれの学校で運営協議会を通じてこう努力されているという現状もお聞きしましたということですね。

ご意見ございますか。どうぞ。

○**委員** コミュニティ・スクールに関しては、もうすばらしく地域の方が久保地区も花岡地区もかなりご年配の方がすごく協力的です。下松地区も、いつも現場も拝見させていただいているんですけども、すばらしい大先輩方が協力していただいて、言うことはないんですね。これ以上期待することがないぐらい。ただ、言わせていただくと、こんなに地域の方が頑張っているのに親はどうなのかと言いたいような。親の方も今ごろ共働きが多いですから、なかなか親御さんの協力って難しいかなと思う部分もあるんですけど、やっぱり若い世代の親御さんてやっぱり若さがある。元気がある。だからもうちょっと一緒に子どもと、、、間に立つ人は大変だなと思う部分もあるんですけど、一緒に全てのことを共有するということがもう少しあったらいいのかなとは思いましたけども。なかなか、すばらしいです。地域の方は、もう言うことないぐらいに元気なおじいさん、おばあさんという、おじいさんおばあさんて、失礼なんですけど、ご年配の方のそ

のパワーに追いついていけないのかなという部分があるのかなと私は思いました。なかなか忙しい社会ですので、子どもたちはすごくうれしいと思いますね。今核家族が当たり前の世の中ですから、うちは同居をしていましたけど、もういるのが当たり前の家庭で育ちましたけど、今の世代の方はもうほとんどおじいちゃんおばあちゃんと生活する場面環境はないので、ああいうふうには地域の方と一緒に祭りに参加したり、手伝いしたりとか、米づくりするのはすごくいい経験になるんだなと私は思います。すばらしいことだと思います。

以上です。

○市長 ありがとうございます。確かに私どももいろんな地域の行事とか夏祭り等々参加させてもらうのに、どこも今もうコミュニティ・スクールじゃないですけど、小学生・中学生いろいろこう参画しておられるんですね。今、今井委員は親御さんはどうなのということですが、やっぱりこれ、今から子どもさんが参加すれば親御さんも、私は僕は知らん、わしは知らんぞというふうな態度もなかなかとりづらいたらうと思うんで、やっぱり徐々にではあると思いますが、そういう意味じゃ子どもが大きな力になって起爆剤になって親もそういうふうには地域に目を向けるようになるんじゃないかと思うんですよね。これは希望的な観測じゃ困りますけども、そういう意味では私、なるほど、うまいなと思いました。その会を運営される地域の方が皆さん本当、その地域の特性を生かして、小学生に頼んだり、場合によっちゃもう司会からやってもらえるような場面もあります。そういう意味では非常にいい傾向じゃないかなという気はしているんですよね。ちょっと親御さんへのこれは、またちょっとゆっくり見ていきたいと思えますね。ありがとうございます。そういう意味ではお祭りの本場、東陽の江口委員、どうぞ。

○委員 いろんな考え方があると思うんですが、コミュニティ・スクールという言葉は僕はあんまり好きじゃないんですが、というのは前から皆さん言われているように、下松市内にはいろんなところでいろんな祭りがあって、前から下松独自のコミュニティ・スクールがもう完全にできていると思うんですよね。だからそれを完全にこれからはもっとさらに規模を広げて、もう少し掘り下げてということだと思うんです。東陽の場合を見ますと、東陽団地ができてから30年ぐらいいになりますが、一番のコミュニティ・スクールはコスモスを植えたことが、私たちのコミュニティ・スクールの原点だと思うんです。ですから、そのコミュニティ・スクールというのは、住民が提案して小学校と共同でそして公民館とみんな、要するに3世代、4世代交流、全部越えて新しいものをつくろうという意欲があったというか、あとみんな新しいものやってみようよと。それには男の子も女の子も共同できると。できるとまた楽しいものが待っているよと、こういったものがあるともものすごく参加しやすいんです。それが成功したと思うんです。

もう一つは、東陽団地というのは、全部の世代の違う皆さん、それから収入の違う皆さん、各地域の違った皆さんが集まったのを、一つの新しい団地なので、みんなそれぞれ考え方が違うんです。そういう考え方が違うときどうすればいいかという、やっぱり共同の何か苦しいこと、楽しいことをやってみよう、酒を飲んでみよう、いろんな話を聞いてみようということで、とにかくみんなが集まって、君はどういった考えを持っているのか、どういったことをやりたいのかということで団地をつくったのが東陽団地。それでその団地の中で飲みの中で出たのが祭りをやってみようといったことですね。ですからそのコミュニティ・スクールもまさしくそういったものだと思うので、今のコミュニティ・スクールの中で学校運営協議会は地元の住民がやっていますが、私は問題なのは、その地元の住民の中でも学校運営委員というのは各例えば住民の長、自治会長さんとかいろんな、親の会とか、いろんなそれぞれいつも決まっている皆さんが出てきちゃっているんです。だからその学校運営協議、たまには3分の1ぐらいは全然知らない、そういった体験のない皆さん方も入れて、新しい考え方を見ることも必要だと思うし、だからこの任命がこの教育委員会にあるようですけども、そういったものをやっぱり調べてやられたらどうかなという感じがしますし、一番の私は根本は住民も子どもも一生懸命頑張っているんだけど、家庭の親が出てきていらっしやらないというのはなかなか難しい。今井さんと同じ考えだと思うんですが、私の場合は久保・東陽・切山なんですけど、どうも小学生とお父さんお母さんが出てこられない、積極的でないといいですかね。地域の皆さんの運営協議会はものすごい活発なんです。こういったことをやれたら、ああいったことをやろうということで、さっき校長先生言われていましたが、本当に自分の子ども以上にその学校運営協議会の皆さんはやっているんだけど、

肝心の親の皆さんがどうも出てきていないのがちょっと残念だなというのが私の本音です。だから、さっき市川委員が言われていた不登校も、なかなかお祭りなんかに出てこないんです、彼らはね。だからそういったものをどうやって引っ張り出すかというのが大事になるんですが、そうするとやっぱり親御さんが無理してでも連れてくるようにするとか、何かその子どもたちだけでもいいから集まって小さなことでも何かさせることができないかどうかということ、とにかくみんなで見守るような体制が必要だと思うんですよね。うちの東陽地区は残念ながら毎年子どもたちが減ってきて、東陽まつりも寂しくなっています。やっぱり子どもがいないと祭りは寂しいんですよね。だからそういった子どもたちを参加させるにはやっぱり親御さんにも出てきてほしい。もう強制的に出るぐらいにするのは間違いかもしれませんが、出ようと思うような楽しいものにしなれば僕たちいけないと思うんですけども、とにかくこのこれからのコミュニティ・スクールというのは、もう少し親御さんに頑張ってもらって、まだ3者1体になって2者プラスワンみたいな感じなので、3者が同じ土俵につくような協議会にできるようなものが理想だと思うんですよね。まだ、僕もコミュニティ・スクールができたばかりで、どうすればいいかわかりませんが、外から見ていて、努力というのはみんなが同じ努力をしないとおもしろくないんで、今ある団体だけが一生懸命頑張っているがほかの団体はくっついてこないというのは、ちょっと三すくみがないようなことがあるような感じするので、それをもう少しうまく円滑にできるようにするにはどうすればいいか、今後の僕は問題点じゃないかなという感じはしますが、はい。

○市長 ありがとうございます。私も東陽の地域の行事・お祭り、よく行かせてもらって、たびたび飲みケーションにも参加させてもらっていますので、先般はちょっと市政との地域の懇談会ということでいろいろお話もさせてもらいました。非常にまとまりのある地域というか、コミュニティのある地域という印象を持っていますので、江口委員がやっぱり今井委員と同じように、子どもたちは出てくれるけれども親が出ないというそこを同じような指摘がありました。これは私はさっき希望的な観測じゃないですが、子どもたちが出したら親もついて出るんじゃないかなというふうに樂觀視していますけども、なかなか今おっしゃるのはそう簡単にはいかないぞという警鐘のような気もするんですよね。現実を見て、私自分で思うんですけども、30代、40代の親は忙しいような時代でもあるんですよね。私自身の経験で言っても大体50代の中盤ぐらいからすつとこう気分的に少し楽になったかなど。過去を振り返ったり、学生時代の友人をまた訪ねようとか、こう気持ちのゆとりが出て、どうも30代、40代を思うと忙しかったなというような気もして、弁護するわけじゃないんですけども、ちょっと教育長、援助してください。助けてください。助け船出してください。

○教育長 助け船になるかどうかわかりませんが、保護者の参画とか家庭教育とかがそれぞれ西本校長先生の説明でも、やっぱりそれが中核になるだろうというふうに思います。一方でしっかり協力してくださる保護者の方というのもいらっしゃるし、下松小学校、小中はOBの方とか、あるいはPTAの方でおやじの会とかつুক্তっておられます。卒業後も学校のほうに支援、いろいろ環境整備とか、あるいはまた市の音楽祭でも、飛び入りでおやじの会に盛り上げていただいたと、そういう組織もあります。全て子どものために学校のためにということでやっていただいておりますが、一方で学校運営協議会の中にはPTAの方もいらっしゃるんですけど、大体役員です。あるいは何かの組織の長という方が多いんですけど、すごくいい意見をいただいているのでありがたいです。また下部組織じゃないですが、実動隊、推進母体をつくっている学校も結構あるので、学校運営協議会で出た意見をグループごとに分かれてる、PTAの方とか、地域の方が協力しているんな取組をやっている学校もあります。ちょっと硬直したような感じもありますが、実際には柔軟に動いている学校は多いというふうに思います。保護者の方は出にくい、お仕事で出にくい年齢にもあると思うんですが、学校によっては保護司会、民生委員の方に協力してもらって学校での講演会とか何かいろんな活動をするときに小さいお子さんの面倒を見てもらえるようなこともやっております。少しでも出やすい、出てもらいやすいようにということで小さいお子さん、赤ちゃんの面倒を見たりとかいうようなことも協力してもらっている学校も結構あります。だからそういうサポートも考えていかなくちゃいけないだろうし、魅力的な中身にするということもまた考えていかなくちゃいけないなというふうに思います。

○市長 ありがとうございます。どうぞ。

○委員 教員仲間では、校長が変われば学校が変わると、教頭が変われば職員室が変わるというようなことをよく言われるのですが、コミスクのいいところは、例え校長さんが変わられてもやっぱりいいところは残ると思うんですね。ひょっとすると今までは校長さんが変わられたらいいところまで消えてしまうというところがあったんじゃないかと思いますが、いいところがコミスクがあれば残る可能性は十分あるだろうと思います。

先ほど教育長さん言われましたが、このコミスクを成功させるかどうかはやっぱり学校運営協議会の委員さんの選び方がかなり大きく左右するんじゃないかと思いますが、先ほど言われたように団体の長さんなんかを校長の立場とすれば推薦することが多いんじゃないかと思いますが、校長さんからの推薦があって教育委員会が任命するんだろうと思いますが、なかなか校長さんの推薦、これはだめだちゅうわけにいかないし、そのときの推薦を誰にするかが大変大事なことになるのではあるまいかと。ただ、さっき言われたように、団体の長さんがその傘下の組織に、あるいはその団体の多くの皆さんに情熱を持って話しかけられれば、そのコミスクというのはこの下松の地域では大変成功することになるのではないかと期待をしているんですが、どれだけその委員さんが情熱を持ってそれぞれの地域におろしていくか、それぞれの団体におろしていくかということが重要になってくるんじゃないかと思っております。

もう一つ、市長さんに感謝をしなきゃいけないんですが、コミスクに結構の予算をつけていただいておりますので、その点は大変ありがたいと思っております。ありがとうございます。

○市長 今のご意見に。

○教育長 私も全く同感で、下松市のコミスクがスタートして、県内にないという区域も相当あります。それは財政面での市のバックアップがとっても大きいんです。他市からしたらすごくうらやましがられるような人の配置、そして学校への助成金等もろもろあります。とにかく人の配置は非常にありがたい、助かっております。学校現場からも、業務改善からしても非常にありがたいし、推進力になっていると思います。ぜひ今後ともよろしくお願いしたいというふうに思います。

○市長 ちょっと予算要望の時間になってしまいましたが。（発言する者あり。）この総合会議そのものがやっぱり行政とのこの教育部門とのつながりということですから、そういう意味ではこういう意見をお聞きしながら反映していかなければならないと思っておりますので、時間的な配分はまだいいですよ、コミュニティ・スクールで。

○教育次長 まだ大丈夫です。

○市長 もうちょっと聞いてみたいと思います。どうぞ。

○委員 いいですか。僕が非常に感心しているのは、コミュニティ・スクールの各活動の記録といえますか、こういったことをやったよというものを一般住民に知らせてくれるのは非常にありがたいですね。我々の団地の中では必ず回覧板でコミュニティ・スクールの内容、今週はこういったことをやったとか必ず来るんですよ。これはまた今井委員も私も久保中学校からこういったことをやっていますよというお手紙が来ます。ですからこういったことを一般住民に知らしめるPR活動、これどんどんやるべきだと思うんですね。だからこれはとってもいいことなので、一番はそのコミュニティ・スクールみたいなものがあるんだということを、一般の子どもにいない、例えば独居老人とか、おじいちゃんとおばあちゃんとか、そういった方はコミュニティ・スクールって何かねってわからない方が多いんですよ。ですからそういった皆さんに協力してもらうためにもそういったコミュニティ・スクールの機関紙をどんどん配ることと、もう一つ、コミュニティ・スクールはこれからこういったことをしたいから手伝ってほしいと、こういったことを手伝ってほしいとなったら具体的にそういったコミュニティ・スクールの機関紙に載せるとか、そういったことをしたほうがいいと思いますね。非常に活発でいい、さらに活発にするにはやっぱりPRだと思いますんで、これをどんどんやっていただければと思います。

○市長 ありがとうございます。今のご意見はこの教育部門、コミュニティ・スクールに限った話でなくて、9月議会でもある議員さんから「市はいろいろこういうふうになっているじゃないか」と、「もっと発信しろよ」という、いいことをやって市民の皆さんに80周年の記念にもなるし、それは関係ないですけども、いいことやったら市民にお知らせしろというふうな発言もいただいたんですね。今、江口委員のおっしゃるとおり、やっぱり謙虚なんですね、市の職員は。私も部

長会議で本当によく言います。もっと積極的に発信しなさいっていうですね。それもまたいろんな地域のコミュニケーションにもつながるし、少しお金も費用もかかりますけど、それは費用対効果から見れば絶対に将来的にいいことにつながると思うので……。

○委員 大賛成、いいと思うんですが、もう一つ、ちょっと話が別になりますが、「潮騒」が隔月になりましたよね。あれが非常に残念なんです、あれを補うためにはやはりインターネットで市役所のホームページをもっとやっぱり充実すべきじゃないかと思うんですね。一般的に下松市は他市に比べてものすごい内容がかたいですよ。難しいこととそれから新鮮な最新のニュースが少ないですよ。やっぱりどんどんインターネットはどんどん変えていかないとおもしろくないし、見る人も変えていかないと寄ってこないんですよ。ですから、今市長言われたように、どんどんいいことをやっているならどんどんいいことをホームページに載せて、一般市民が見やすいような、子どもでも見れるようなそういった「潮騒」の臨時号を隔月の出さないときはインターネットに出すとかですね。何かそういった、タイムリーなものをどんどん載せていていただきたいのと、僕の希望なんです。だからこの学校運営協議会もホームページにどんどん載せていいと思う。いっぱい載せる、見るのはもう、媒体は自分たちが見たいものだけ見ませんから、載せるのは幾ら載せてもいい。ただし、載せるには見やすいこと、わかりやすいこと、漫画やなんかしっかり入れること、活字だけじゃだめ。またさっき市長が言われたように、あんまり英語を並べないでわかりやすい言葉で、こういったことが必要だと思えます。申しわけありません。希望です。

○市長 コミュニティ・スクール、プログラミング、今日の議題は両方横文字なので大変恐縮ですが、今、広報の「潮騒」の話まで及びましたけども、全く同感で、私も今日は、総務部長は傍聴席になるんですか、発言できるんでしょうか。私ももう部長にはいろいろ言っているんですよ。おっしゃるとおり難しいし、もうこれ誰が読むのかってですね、広報は見ました、中は読んでいませんちゅう、大変ご無礼なことを言ってあれですが、もっとこう……。

○総務部長 総務部長の藤本です。市の広報、全く同感です。いつも市長からこれはどうかというふうにご指摘を受けているんですが、まず写真、それから中身、それから本当にリアルタイムの本当にわかりやすいというこれを目指していかないといけませんし、一方ではやはりSNSの活用というのも一つの方法だと思いますので、今市長の「くだまつ日記」というフェイスブックもありますし、またちょっとこういういろいろ研究しながら、若い人にも見ていただけるようなそういったPRをどんどんしていきたいなというふうには考えています。

○市長 すみませんね。助け船を再三出してもらって。
どうぞ。

○委員 ちょっと先ほど話があって、話が途中で終わったんですが、今市長さんが井戸端会議に出かけておられるときに、これコミスクのことが出てくるようになったら本物じゃないかと思うんですけどね。「学校は変わったね」とか、「学校に行きやすくなったよ」とか、そういうような声が出るようになったら、短い時間だからそこまでの話にならんかもわかりませんが、時間があるときには市長さんのほうから「コミスクどんなですか」と聞いていただけると大変ありがたいと思えます。きょう行かれる花岡なんかは大変よく頑張っているところじゃないかと思うんですけどね。少しハッパをかけてもらおうとありがたいです。よろしく願います。

○市長 今ちょうど市政と地域との懇談会といいますか、地域を一緒に考えましょうということで各公民館単位で回っているんですね。今市川委員おっしゃるように、教育の関連では子どもたちの通学路の問題とか子どもたちの安全安心については、大きくご意見出ます。守るという立場で、ですね。ところが今おっしゃったように、教育の中身というのはなかなか話題の中心になりづらいとかそういう側面もありますし、今言われたように、コミュニティ・スクールについても、ちょっと問題提起のような格好で投げかけてみたい。それがまたこのコミュニティ・スクールの発展というか、意識を持ってもらうということも地域の広がりをつくる。いずれにしてもこのコミュニティ・スクールということ、地域が交流、コミュニケーションを持つということは、非常に意味のある大きなことなので、例えば災害時なんかは地域にコミュニティがあるほうが災害の被害率も低いし、早期救助にも当たりやすいし、やっぱり地域がつながりがあるということが証明するのが、私ども、熊本地震とか去年の西日本水害、こういうところへの支援は、下松市、去

年は笠戸島もやられたわけですからけれども、やっぱり県全体での要請で派遣されるわけですけども、当時、白木委員は水道局長だったときは熊本地震にも派遣しましたね。派遣して帰って戻った職員の報告にあるのが、やっぱり今の地域コミュニティが、地域が、しっかり連絡がとれるところとか、地域にコミュニティがあるほどやっぱり援助も支援も円滑に行くし、そこに情報が何もないけれどもどうしようもないと言っていました。先ほど今井委員、また江口委員から親御さんという話がありましたが、そういう意味から地域のコミュニケーションも含め、コミュニティ・スクールで子どもが地域とかかわれば情報は家庭の中に入りますから。親御さんも参加したい希望はあるけれどもなかなか物理的に出にくい時間帯とかもおありでしょうから、それなのに追及するわけにはいきませんが、希望的な観測になります地域と学校と子どもたちが結びつければ、親御さんも自然にこう結びついてくるんじゃないかという思いもあります。

先ほどご質問は受けましたけど、ご意見は聞いておりませんので、白木委員、何かご意見おありでしたら。

○委員 申しわけなんですけど、私、今まであんまり教育委員会にいたこともないし、PTAもやったことがない、そういうことで余り意見を言えるような経験を持ち合わせてないんですけど、これから勉強して多少は何か意見言えるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

○市長 饒舌な白木委員がちょっと今日は謙虚なんです。先ほど来、親御さんが参加されない問題ですけども、こうしたコミュニティ・スクール、これがどんどん大きく発展をして、先ほど市川委員がおっしゃったように、不登校なんかも解決の一助になるようなところまで発展できれば最高にいいと思うんですけどもね。なかなかこれは悩ましい話でもありますから、慎重に扱わないといけませんしね。非常にデリケートな話でもありますので、これがすぐ直結、いい方向にということにはならないかもわかりませんが、やっぱり地域でこういった広がりというかですね。（「知恵を出し合ってますね」と言う者あり。）そうですね。そういうことでちょっとコミュニティ・スクールについてはいろんなご意見もいただきましたので、これをまた委員会、そしてまた行政とのつながりの中でご意見もいただきました、予算要望もいただきましたけども、ちょっと時期まだもう少し早いんですけども、いい方向に進めてまいりたいと思っております。

それでは、2点目のプログラミング教育について、これは先ほどのご説明の中で新しい取組ということなので、なかなかご意見になりづらいかとも思うんですが、これはご質問も含めてちょっと教育部門にお詳しい市川委員のほうから。ご指名をさせていただきました。

○委員 全くコンピューターには弱いんで、なかなか物が言えないんですが、私がまず思うんですけど、すばらしい。すばらしいというか学校教育も変わってきたなという思いと、年配の人たちは大変だろうなと。このプログラミングだけじゃないんですよ、来年から入ってくるのは、3つあるんですよ。プログラミング、英語はちょっと移行期間がありましたから、もうかなり慣れておられるかもわからないが、英語も教え、教育の質を変えなきゃいけない。いわゆるアクティブラーニングですね。そういう教育をやっているかんにゃいけんということになったところに、これは大変だなと。とにかく子どもにとって担任に元気がないのが一番つらいことだろうと思うんですよ。担任がものすごくはつらつとして生き生きと授業してもらえるとというような、それが一番大事なことじゃないかと思うんですけど、なかなかそういう具合に行かなくなるんじゃないかと。コンピューターに弱い私からはですよ。そこでやっぱり助け合いながらそんな悩みがないようにしていきながら、このプログラミングの教育も進めていきたいなと。だからとにかくプログラミング的思考、要するに論理的な思考を子どもたちに植えつけるようにさせればいいんですけど、必ずしもコンピューターで動かすというようなことばかりじゃないはずですから、その辺もしっかりわきまえて、5月から7月にかけて小学校の教科書を採択するために全ての教科書を見させてもらったんですけど、数学の5年生の多角形のところで学習指導要領でそこでやるようなことを示していますので、各教科書のところを見させてもらったんですが、教科書によってもいろいろありましたね。必ずしもコンピューターを使っていなくて、平面で考えさせるというようなところもありますし、1年から4年まではそういうプログラミング的思考だけをこう押さえるぐらいで、5、6年でしっかりコンピューターを使って学習させるということもありました。また後で言いましょう。皆さんの意見も聞いてみてください。

- 市長 先ほど世木課長の説明の中にもプログラミング的思考という形で、必ずしもコンピューターに限らず考え方も論理的なものをしようという話がありましたが、私は先ほど拝見したときに、ここまで進んでいるかという驚きと、私は小学校の生徒にもなれんぞという思いがしたんですけども。今、貴重なご意見だと思うんですが、「担任に元気がないほど生徒に」というお話ですよね。この校長の元気さは、私も毎月1日の日にその大手町に立哨に立たせてもらっていますが、とにかく校長の声の大きいこと、で、それにつられて子どもたちまで元気で、もう横断歩道の向こう側から渡ってくるときに大きな声で「おはようございます」という非常に朝から気持ちがいいですね。あの校長を見たら、皆悩まんのじゃないですか。勝手なことを言いました。どうぞ。
- 委員 私ごとで教えていただきたいんですけど、プログラミング教育というのがふえたら、市川委員が言われたように、何かが減っていくわけですかね。時間が物理的に増えるのか、それとも数学の一部がそれにかかわると。何か変われば今までやったことがやれなくなるとか、そういうふうになるような気がするんですけども、それはどうなっているんですかいね。
- 委員 私が答えていいかどうかかわからんですが、各教科の中でプログラミング教育をしていくことになっておるだろうと思いますね。だから一番出てくるのが数学と理科とその辺じゃないでしょうかね。ほかの教科でもやれるところはプログラミング的思考を考えさせるということになるだろうと思います。
- 委員 それかふえたら数学なら数学の時間の中で何か減らさんにゃいけません。その辺のカリキュラムとか何かあるんですかね。
- 委員 さっきも言いましたけど、正多角形のところでやるとやりやすいですよというようなことで文部科学省が例を出していると思う、学習指導要領で言っているものですから、そこで各教科とも取り上げているのを見ましたけれども、だから正多角形を教える中でそういうところも取り入れるということで減る部分はないと思いますよ。今学校現場は増えることばかりなんです。だから担任元気がなくなるんですよ。何か一つ入ってきたら一つ減らしてくれればいいんですけども、入ってくるばかりで、西本校長さんに代わって言いますけど、そんな現状があるかと思えますよ。ただ、先生方の働き方改革というようなことも話題に上がっていますが、大変、昔の先生に比べれば仕事量が増えているだろうと思いますよ。
- 市長 担任が元気が失われちゃいけないので、ちょっと今、教育長、ちょっと弁護してください。
- 教育長 一番元気なのは西本校長、これは間違いないですよ。私もいつもを貰っております。今市川委員さん言われたように、特に小学校は量が増えています。増えた分、何か減るかといったら減っていません。ですから単純に週時程の、週の授業時数、年間授業時数もふえています。来年度から完全に増えます。だから28コマあったのが、1週間当たりですね、29コマに。小学校、毎日6時間ですよ。小学校6年生、5年生も。中には1日だけ例えば月曜日を7時間にして、あと6時間、水曜日だけ5時間にするというような学校もあります。あるいは朝、朝学というのがありますね、朝学習、あの15分を授業に毎日とって、それを足して3コマで1時間分になるんですけど、それを授業数に振りかえるというような日課を組んでいる学校もあります。それ何で増えたかという、先ほど今話題になっているこのプログラミング、プログラミングは内容が数学の中の多角形を理解するのに、先ほどあったスクラッチというソフトを使って、多角形とかいろいろ描かせるんですよ、信号を送って。それで学習の理解を深めていく、こんな考え方も試行錯誤、失敗しながら学んでいくという勉強方法の一つです。あるいは、それプラス総合的な学習の時間でこういうロボットを、多分今日は、総合的な学習ですよ。（「はい」と言う者あり。）それを小学校の低学年から入れ込んでいく。その計画を小学校の先生は今年中に立てる必要がある。これでまた仕事量が増えます。それに外国語活動が英語科になります。5、6年はもう英語科です。これも大変です。3、4年も外国語活動が始まりますので、今移行でやっていますが、授業数は増える。だから市長がおっしゃるようになります。英語も教えないといけません、プログラミングも教えないといけません。一人で全ての教科を教えるようになるので、中学校とかに比べるとはるかに負担は多いと思いますので、何かを削っていかんといけません。それを市教委、行政のほうでしっかり考えながら、学校と相談しながら、元気が出るような方法を考えていかんといけんというふうに思います。先生方はもうやる内容は決まっています。一日の勤務時間も決まってい

ますので、その中で何を削って何をやるか。業務支援員とか、中学校であれば部活動の支援員というものが徐々にふえてきているような状況であります。仕事の内容はふえていますが、時間は同じなので、何かを削る、工夫するしか、うまくできるような状況じゃないということです。

○市長 オールラウンドプレーヤーなんですね。小学校の先生は、こうやって見るとですね。大変だと思うな。

○委員 僕はパソコン非常に好きなので、きょう興味深く見させていただきましたが、非常にプログラミングというのは、子どもたちにとっておもしろいようなそのやり方でうまくつくっているなとまず感じました。だからあれだったらこれから興味を持つ子どもたちが増えてくるんじゃないかと思います。ただし、まだ断片的でわからないですが、中ぐらいの能力といいますか、コンピューターに興味ある子どもたちはおもしろいだろうけども、それよりもっと特殊なことがないかつまんないと思うんですよね。だからつまんなければどうするかというと、例えばパソコンクラブとか、授業終わってからの自主活動でクラブをつくって、何かもっと上のスクラッチの上級編とか、あるいはフォトショップの簡単なものとか、そういったソフトを提供してあげて、伸びる子どもはどんどん伸びるような教育も必要だと思うんで、だからあれは一般の子どもたちはパソコン、もしできれば、思い切ってできれば自分たちももっともっと特殊な絵を描くとか文を書くとか、いろんなものができるような特殊なソフトの入った高価なパソコンを、もしできればどんどん教育として伸ばすことはできるんじゃないかという感じもしますね。

それから、もう一つ写真はあれ自分たちで撮った写真ですかね。そうですね。あれいいと思いますね。もっと多様化というんですか、もっともっとアピールする方法もあると思うんで、あれは子どもたち自分でつくったものを自分でまた発表させるんですか。いいですね。ああいうのをどんどん発表させて、いろんなことがまずできるようなものにしてほしいというような考えが一つと、今度は来年、再来年、今度はA Iという言葉が出てくると思うんですよね。多分A Iの教科書もまた科目に入ってくると思うんですよ。そうするとこれからの教育というのはどうしたものを減らしたらいいかというのは、僕の考えは、数学とか理科とか物理で難しいものはカットしても、世の中に役に立たないとか、これ覚えてもしようがないとか、大学の問題、意地悪問題とかああいったものと違ってもっと素直に考えられて、もっと勉強が楽しくなるような学習要項が必要だと思うんですよ。だからこれから、時間が迫ってきたけど、難しいものはカットしちゃって、小学校では、ですよ、カットしちゃってこういった割とみんなが楽しいものにやって、それからそれ以上やりた者は自分で勉強するとか、中学校・高校で勉強するとか、専門学校をもっとどんどんつくるとか、そういったことのほうがいいと思うんですよ。だから今の子どもたちは全部同じ能力しかないんだけど、難しい学習も簡単なのもみんな同じにやらされているけど、小学校はもっと簡単に学校に行きたくなる楽しいような授業をどんどん僕はふやしてほしいと。

それからもう一つは、もっともっと日本人って今言葉がすごく乱れてきちゃっているんで、教科書でももっと言葉をしっかりと、さっき言った英語を余り入れないで、日本語独自の言葉はいっぱいいい言葉があります。大和言葉というのがいっぱいあるんですが、ああいった大和言葉といいますか、いろんなその日本語をもっと大事にするような教育も下松教育は大事じゃないかなという感じもしますんで、もう一度原点に戻ってやったらいいんじゃない、やったらいいんじゃないは私の考えなんですけど、私はそう思うんですが、小学校はもっと楽しい授業で簡単な授業で、このプログラミングは大賛成でいいと思います。伸ばせる子はもっとどんどん伸ばすべきだと思います。こういった意見で、勝手な意見でございます。

○市長 なかなか教育委員会だけで判断できるような話じゃないかと思うんで、文科省にちょっと言わなきゃいかん問題かもわからんですが、ちょっと今メモをさせていただいて。これは今年下松小学校が今取り組んでおられて、新年度から全市的な話になるんですかね。

○教育長 そうです。全面実施ですので、来年度からどの学校も同じような授業となります。

○委員 小学校がですね。

○市長 小学校。

○委員 中学校は再来年からです。

○市長 そうすると今下松小学校がちょっと試験的にやっておられるわけですね。先駆的に。そういうことで今、ちょっとこれもう来年から新制度になるということですね。

時間もお約束の時間に近づきましたので、これだけは言うておかなければちゅうことがあったら、よろしいですか。では3分以内でお願いします。

○委員 プログラミング教育はお金がかかるんじゃないかと思うんですよ。例えば今日は、違う教室ではタブレットを使っていたけども、プログラミングのところはデスクトップですよ、やっていたですけど、できればタブレットの端末を使うほうがいいんだろうと思うんですよ。ということは、まだ下松小学校全部が一学級全部はそろっていないでしょうね。だからもう少しタブレットをそろえてもらおうと、お金がかかる話です。

それと、やっぱり隣の市はタブレットでやっているが、下松はデスクトップということになるとどうしても教育格差といいますか、教育の機会均等といいますか、なかなか難しい話になりますけど、できればいい状況で子どもたちに学習に取り組ませたいという思いがあるものですから、徐々に増やしていただければありがたいなと思っております。

○市長 そういう意味からも企画財政部長も来ておりますので、しっかりお聞きしておりますので。

では、きょう、プログラミングとコミュニティ・スクールについていろんなご意見をお聞かせいただきました。この総合会議の目的であります、行政と教育部門が一体になってということでご意見も生かしてまいりたいと思いますので、貴重なご意見をいろいろありがとうございました。今日は、本当にありがとうございました。

事務局に返します。

○教育次長 それでは、以上をもちまして、令和元年度下松市総合教育会議を終了いたします。皆様、お疲れさまでした。

午後4時35分終了

令和元年10月31日